

# 「夢・チャレンジキャンプ 2013」

東広島市立三永小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 **勤労** **社会奉仕** **自然** **創作** **伝統芸能**

体験活動場所・宿泊場所 福山自然研修センターふくやまふれ愛ランド

## 【学校紹介】

- 本校は、校訓に「かしこく やさしく たくましく やりぬく」を掲げ、「三永格物・九思」の理想と情熱を継承している。昭和 63 年の東広島駅開業を契機に宅地化が進む中で、豊かな自然と人がふれあう三永地域として、学校を支える教育基盤が整い、1月の「とんど祭り」や8月の「盆おどり大会」の伝統行事をはじめ、今年から実施している広島カンツリー倶楽部西条コースと連携したゴルフ場での体験活動など、学校・家庭・地域が連携した取組と、平成 24 年度から実施している広島県教育委員会指定事業の「学力向上総合対策事業」により、知徳体のバランスのとれた児童の育成を目指している。

- 校長名：脇 坂 治 海

- 児童数（学級数）：296 人（16 学級 特別支援学級含む）

- 所在地：東広島市西条町下三永 930 番地

- 電話番号：082-426-0005

- URL：minaga-sho@city.higashihiroshima.hiroshima.jp



## 【体験活動のねらい】

- 3泊4日の「野外活動」を通して、社会集団の一員としての自覚（きまりの遵守）と連帯感（相互扶助と感謝）を高めるために、児童は、次の3点を活動目標として定めて取り組んだ。
  - ① みんなで協力する。
  - ② きずなを深め、楽しい思い出を作る。
  - ③ 来たときよりも成長する。

## 【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5月	「野外活動」の意義を学び、目標を定める。	2	特別活動	学校	学校職員
6月	「野外活動」を成功させるための役割分担を行う。（班活動、係活動）	2	学級活動	学校	学校職員

7, 8月	【道徳の時間】 「一ふみ十年」の題材を通じて、自然の偉大さを理解し自然を愛する態度を養う。	1	道徳の時間	学校	学級担任
	係活動を実施し、スタンプ練習を行う。	6	学級活動	学校	学校職員
8/20(火) ～ 8/23(金) 3泊4日	【野外活動】 ◇異文化体験活動 ◇サイエンスショー ◇フィールドゲーム等 レクリエーション ◇野外炊飯, キャンプファイヤー ◇動物園バックヤード体験 ◇水泳体験 ◇創作活動	24	学校行事	宿泊施設	学校職員, 学生ボランティア, 現地スタッフ及び 指導員
9月	【道徳の時間】 「いるかの海を守ろう」 3- (2) 自然愛・動植物愛護	1	道徳の時間	学校	学級担任
10, 11月	「学習発表会」への取組	16	総合的な学習の時間	学校	学級担任
12月	「日本の食文化を学ぼう」 ふるさと料理ちらし寿司	2	総合的な学習の時間	学校	学級担任, 地域の人
	「教室で学ぶ国際理解ー中国の文化を学ぶ」	2	総合的な学習の時間	学校	学級担任 留学生

### 【体験活動の概要】

#### ○「異文化体験活動 “アフリカの音楽を楽しむ”」

一日目の午後、福山自然研修センター「ふくやまふれ愛ランド」（以下、ふれ愛ランド）の企画事業として実施した。とても軽快な音楽とリズムカルな踊りで、少し緊張気味の児童の気持ちがかかなりほぐれ、効果的なアイスブレイクとなった。一日の振り返りの中でほとんどの児童が「楽しかった」と感想を述べていた。



#### ○「野外炊飯」

二日目の午後からは、「野外活動」の中で児童一人一人の役割と責任を果たす場であり、協力・協働を味わうことのできる「野外炊飯」を行った。「野外炊飯」は、ほとんどの児童がはじめての経験であることから、事前の係活動から最も時間を要して取り組んだ活動の一つである。そのため、応援の学校職員

や学生ボランティアの人員を最大限に増員し、事故防止等の安全対策に万全を期した。児童は、事前の係活動から明確なイメージを持って取り組んだため、互いに助け合い、協力して美味しいカレーをつくることができ、達成感に満ちあふれていた。

○「動物園バックヤード体験」、「ローズアリーナプール水泳体験」

三日目は、ふれ愛ランドのスタッフの皆さんが福山市の公共施設と連携して企画した二つの事業を体験した。午前中は、ふれ愛ランドからバス移動で15分のところにある福山市動物園でのバックヤード体験であった。日頃は、動物たちを表からしか見ることができないが、動物園の職員目線で飼育という立場で動物たちとふれあった。「命」ある同じ生命体という思いを、動物たちのぬくもりから感じ取ったようである。午後からは、ローズアリーナプールに移動し、国体候補選手による「高飛び込み」の練習を見学し、その後、気持ちよさそうに思い思いの泳法で水泳を楽しんだ。連日の暑さの中で“ほっ”と一息できた時間であった。



○「キャンプファイヤー」



三日目の夜は、仲間と過ごす最後の夜。係活動も責任をもって行うことができ、時間前行動が身に付いてきた。それぞれの班が準備したスタンプを少し照れながらも楽しく行っていた。誰もが拍手を忘れなかった。友情の火を中心に、お互いの気持ちを高め合った夜だった。

○「清掃奉仕作業」

日課として、朝のつどいの後に「清掃奉仕作業」を実施した。3泊4日の野外活動が実施できたことへの感謝の気持ちを込めて、活動中使った場所を、黙々と清掃した。学校で取り組んでいる「黙動清掃」が活かされた時だった。

**【体験活動の効果を高める事後学習】**

- 「道徳 <『いるかの海を守ろう』3-(2)自然愛・動植物愛護 ころのノート 自然とともに生きる。>」
- ・自然の偉大さを理解し、自然を愛護する態度を養うことをねらいに取り組んだ。
  - ・野外活動での自然体験を踏まえて自分たちにできることを考えていった。

感想文一部抜粋

「かんばんなどを立てたり、実際に自然にふれたりするとよいと思います。」

「自然を守るためには、ゴミを川などに捨てずに、手作りのゴミ箱を作ったらよいと思います。」

「僕は、キャンプを通して、自然があるから生きることができるんだなと感じた。」

- 「総合的な学習の時間〈日本の食文化を学ぼう（ふるさと料理 ちらしずし作り）〉」

地域のふるさと先生（お年寄り）に指導をしていただき、日本に昔から伝わる「ちらしずし」をみんなで協力して作った。指導の際、「野外学習」の学びを活かし、力を合わせて誰一人傍観者にならず、気持ちよく助け合って作業できることに留意した。児童は、「野外活動」の経験を生かして、スムーズに協力的に分業し、先を見通して短い時間で作業することができた。また、後片付けも時間内に気持ちよく終えることで、和やかな雰囲気地域の方と交流を行うことができた。



### 【交流先や施設等との連携】

- 学校も受け入れの施設側も初めての3泊4日の野外活動であったため、次の点に気を付けて相互の連携を行った。

- [事前]
- ・野外活動の目的に応じた「活動プログラム」を検討する。
  - ・活動拠点となる「福山自然研修センター」をはじめ、「福山市動物園」や「ローズアリーナプール」の現地下見を行い、活動の留意点を捉える。
  - ・健康（暑さ、アレルギー）対策について、使用する施設と打ち合わせを行う。
  - ・使用料の確認と予算の確定を行う。
- [活動中]
- ・熱中症予防のために、水分をいつでも補給できる環境を整える。
  - ・「活動プログラム」に参加する際の留意点を確認する。
- [事後]
- ・施設が準備した「活動プログラム」について協議する。
  - ・次年度の取組に反映していくために、活動の概要をイメージしておく。

### 【評価の工夫】

- 「野外活動のしおり」を児童一人一人に持たせ、次のように役立てた。
- ・活動のめあてや自分の目標を記入させ、当初の目標を見失わないようにした。
  - ・野外活動の準備物やスケジュールを詳細にまとめることで、児童の自主性や主体性を引き出すために役立てた。
  - ・活動ごと、1日ごと、また、4日間を通じて、それぞれ感想等を記入させ、振り返りに役立てた。
- アンケート調査分析（広島県教育委員会）を通じて（特に、児童の健全な育成に欠かせない「自尊感情」に着目する。）開発的な生徒指導に生かしていく。
- 校内委員会や学級の係活動において、「野外活動」の経験が反映されているか否かを見立てていくことで、最高学年としての自覚を高めていく。



## 【安全面の配慮事項】

- 真夏の活動であるために、次の点について、特に注意した。
  - ・過密なスケジュールにならないように、休息の時間を十分に確保して取り組んだ。
  - ・水分補給が常に行える環境を整えるとともに、睡眠、排便等の健康面の指導を行った。
  - ・「児童健康調査票」を基に、事前に教職員間で情報共有をした。また、食物アレルギーに対する手立てを施設側と十分に協議して取り組んだ。

## 【体験活動の成果と課題】

- 4日間という十分に活動時間が確保された中で、児童の自主性と協調性を高める取組をじっくりと行うことができた。はじめは、係活動が機能しなかった班も、日ごとに仲間同士が意識しあって改善を図ることができ、最終日には、参加したすべての児童が達成感に満ちあふれていた。しかし、「活動プログラム」のほとんどが施設側において準備したものが多かったため、児童の主体性という面では、やや物足りないのではないかという印象であった。

参加児童 49 人に対して実施した資料 1 「アンケート調査」を分析すると、「自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる」という「責任感」を問う項目は、最高学年を控えた 12 月段階には、「とてもよくあてはまる」が 63.2%となり、「よくあてはまる」32.6%を大幅に上回る結果となった。また、「自分にはよいところがある」という「自尊感情」を表す項目についても、「とてもよくあてはまる」が高い伸びを示した。また、活動後の児童は、友達に対する心の垣根が取れ、心から信頼し合え、安心し合える学級集団に成長してきた様子が見られた。学習の場面でも意見交流がスムーズにでき、支持的な風土が育ってきた。このように学校のリーダーとして、また、人間的にも成長していくこの時期に3泊4日の集団宿泊型の「野外活動」を実施することは、大変に意義深いものであった。今後に向けては、児童の主体性をより引き出していくために、企画段階から児童に積極的に関わらせて「活動プログラム」を考えさせるとともに、教職員の応援体制を十分に整えて取り組んでいきたい。

## 【資料 1 「アンケート調査」】

